

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 1 章 番外編 パート 3
黙示は交わりの中で示される

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」

ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

誰かに対して自分の感情を入れる前に、自分の基準を当てはめる前に、「この件について、先に神に聞かなければ。どうすればいいですか？」と、父に聞かずして、自分では判断しないし、裁かない。彼や彼女について父に聞けば、必ず父は耳元で語りかけてくれるのです。神は彼らを愛しておられるから。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。(ヨハネ 3:16)

そして、

わたしのさばきは正しいのです。わたし自身の望むことを求めず、わたしを遣わした方のみこころを求めるからです。(ヨハネ 5:30)

ヨハネ 7 章を見て下さい。

ユダヤ人たちは驚いて言った。

「この人は正規に学んだことがないのに、どうして学問があるのか。」(ヨハネ 7:15)

神学校に行ったわけでも、神学を学んだわけでもなく、学もないのに、どうしてこんなによく知っているのか。

イエスは答えました。

わたし自身の望むことを求めず、わたしを遣わした方の みこころを求めるからです。
(ヨハネ 5:30)

神学というのは、録音されたメッセージを聞いたり、誰かの考えを拝借したのでもなく、自分で考え出したものでも、作り出したものでもない。教えは自分のものではないとイエスは言われました。

見ての通り、これは御父からの黙示なのです。だから、これだけ力があり、影響を与えることができるのです。

「わたしの教えはわたしのものではなく、わたしを遣わした方のものです。わたしが考え出した巧みなことばではなく、わたしに語りかけて下さる父のことば、これが、わたしの教えなのです。」

イエスは、宮で教えておられるとき、大声をあげて言われた。「あなたがたはわたしを知っており、また、わたしがどこから来たかも知っています。しかし、わたしは自分で来たものではありません。わたしを遣わした方は真実です。あなたがたは、その方を知らないのです。」(ヨハネ 7:28)

そこで、イエスは言われた。「あなたたちは、人の子を上げたときに初めて、『わたしはある』ということ、また、わたしが、自分勝手には何もせず、ただ、父に教えられたとおりに話していることが分かるだろう。」(ヨハネ 8:28 新共同訳)

この、最後の一文、「ただ、父に教えられたとおりに話していることが分かるだろう。」イエスが伝えるのは、自分のお気に入りの教えではなく、父から聞いたことなのだと
言うのです。

聞いた人たちが驚くのも無理のないことです。なぜでしょう。

というのは、イエスが、律法学者たちのようにではなく、権威ある者のように教えられたからである。(マタイ 7:29)

それは、彼自身の神学でも教えでもなく、御父の黙示だからです。自分の学びや学歴ではなく、御父の教えに従ったのです。

わたしが父を愛しており、父の命じられたとおりに行なっていることを世が知るためです。立ちなさい。さあ、ここから行くのです。(ヨハネ 14:31)

「父がやれと命じたことを、わたしはするのです。『立ちなさい。さあ、ここから行くのです。』わたしがこう言うからではなく、父がそうするようにと言われたからです。」パワフルですね。

ヨハネ 17 章の最後の節は、イエスの大祭司としての最後の祈りです。

よく聞いて下さい。

私自身、今がそうですが、人生の半ばにさしかかったときに、時の移り変わりを実感し、人生は短い、無駄に生きている時間はないんだということに気付いたときに、私はこのように熱く切望したいし、みなさんもそうであることを願います。

間もなく 33 歳の人生を終えようとしているイエスは御父に言いました。

あなたがわたしに行なわせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上でああなたの栄光を現わしました。(ヨハネ 17:4)

私たちは、他の人から与えられた山のような仕事を終えることはできないし、彼らの期待に応えることもできません。それらをやり遂げることは不可能です。

しかし、神が与えて下さった仕事はやり遂げられるし、そうしなければなりません。

どうして、それが神からのものと分かるのか？

それは黙示です。“燃える木” “知りたがりの息子” “夢” 或いは “御使いの訪問”

「ジョン先生、あなたは、状況を通して主があなたに何を言おうとしているのか知ろうとしながら生きています。だけど、私たちも同じように、毎日、主に問いながら生きろと言うなら、きっと混乱してしまいます。」…「主よ、これは何を意味しているのですか?」「この出来事は?」「この問題は?」「この疑問?」「この歌は?」

つまり、主が語られているのかもしれないけれど、しかし、人としての自分の心の声かもしれない。敵かもしれない。

その通りです。だけど、そう思っているのはあなただけではありません。

時間がないので、取り急ぎエレミヤ書 32 章。

そのとき、エレミヤは言った。「私に次のような主のことばがあった。
見よ。あなたのおじシャルムの子ハナムエルが、あなたのところに来て、『アナトテにある私の畑を買ってくれ。あなたには買い戻す権利があるのだから』と言おう。
(エレミヤ書 32 : 6-7)

主の主が来て言われました。「おまえのいとこ、ハナムエルが来て、『アナトテにある畑を買ってくれ』と言おう。」

その後、

すると、主のことばのとおり、おじの子ハナムエルが私のところ、監視の庭に来て、私に言った。『どうか、ベニヤミンの地のアナトテにある私の畑を買ってください。あなたには所有権もあり、買い戻す権利もありますから、あなたが買い取ってください。』私は、それが主のことばであると知った。(エレミヤ書 32 : 8)

「私に次のような主のことばがあった。」と言った後、実際にそれが起こると「ああ、良かった！その通りになった。危なかった…」このように、エレミヤでさえ、いつも確信があったわけではないのです。自分が間違える可能性があることも知っていました。それでも彼は止めなかった。同じように、あなたも私もそこで止めてはいけません。

もしあなたがエルサレムにいながら、パリサイ派の人々のように、人として来られた神を見逃したいなら、彼による救い、黙示を、ミニストリーを見逃したいなら、ただ座っていればいい。

でも、あなたが、「私の人生を用いて欲しい。」と思うなら—全員が思うべきですが—トランペットの音を聞いた時に「ああ、何か聞こえる。」とは言わないで。燃える柴を見た時に「そんなものを見ているヒマはないんだ。」とは言わないで。そうではなく、振り向いて、見て下さい。そして、言うのです。

「主よ、今日私は何をすればいいですか？」「父よ、私は自分の価値観で人を見たくありません。」「もう、自分の考えで子供たちを導きたくありません。」

「主よ。私は天からの黙示、あなたの導きを待ち望みます。そして主よ。私が正しく聞き取れなかったとしても、あなたのみことばが正して下さい。あなたのみことばがわたしの心に語りかけ、私を正しい道へと導いて下さいます。しかし、主よ。私をパリサイ人たちのようにはせず、御霊で私を導いて下さい。」

振り向いて見る勇気を下さい。そうして、毎日、新しい一日を与えて下さい。再び力を下さい。私はあなたのみこころを知っていますから。」

耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。(黙示録 2:29)

私の願い、それは、私たちが御霊に導かれること。
みことばによって確認され、調整され、正されること。
みことばを知り、主の声を聞いて、そのみこころを知ること。

黙示録を学びながら、単に「昔は、主が人と話していたなんていいなあ。」と思うのではなく、「主が人と話すなんてどんな感じなんだろう。」と思える心を持つように祈ります。なぜなら、

イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。(ヘブル 13:8)

心を開いて、振り向いて、見るのです。

みなさんがパリサイ人にならないように。
みことばを愛し、イエス・キリストの完全な黙示へと御霊によって導かれるように。
主が命じられたことを行えるように。
イエスが歩まれたように生きていけるように。
主に在る兄弟姉妹との関わりの中で、見たことだけを行い、聞いたことだけを言い、主が裁かれることだけを裁くように。
主が、ワクワクするような素晴らしい週にしてくださいませように。
私たちが振り向いて見る時に、イエスの黙示を受けますように。
主の御名と栄光によってお祈りします。
アーメン

どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように。(コロサイ 1:9)